

原文

東欧社会主義圏崩壊後の覇権の動向を踏まえておらず、アメリカの地位について誤解するおそれのある表現である。

アメリカは、1990年代の^{Clinton}クリントン大統領の時代任1993～2001に、IT産業が発展し景気を上昇させた。依然としてアメリカは高い経済力を保持しているが、その^{はけん}覇権は、すでにヴェトナム戦争→P.259でゆらぎ、さらに、2003年におこった^{ほうだい}膨大な戦費をしいるイラク戦争→P.264が長期化してますますゆらごうとしている。北アメリカでも、92年にアメリカ・カナダ・メキシコ間で北米自由貿易協定ナフタ(NAFTA)が結ばれ、地域経済圏の構築が精力的に進められるようになった。

修正文

北アメリカでも、1992年にアメリカ・カナダ・メキシコ間で北米自由貿易協定ナフタ(NAFTA)が結ばれ、地域経済圏の構築が精力的に進められるようになった。そのなかでアメリカは1990年代の^{Clinton}クリントン大統領の時代任1993～2001に、IT産業が発展し景気を上昇させた。またソ連解体後は、世界随一の軍事大国となった。しかし経済的にみると、アメリカはEUや東・東南アジアの台頭のなかで、第二次世界大戦後→P.265のような圧倒的な存在とはいえなくなっている。→P.243